

# 中学部 国語科 学習指導案

日 時：令和4年1月29日(土)  
9：30～10：20

場 所：1年生教室

対 象：Aグループ 3名

授業者：那賀 英里佳 津田 美穂

1 題材名 『おたすけポプラーズになろう!』で、ものや数、動作を含む指示を聞いて行動しよう

## 2 題材設定の立場

### (1) 題材について

生徒観	<p>本グループには1年生2名(C・D)と3年生1名(N)の計3名が在籍している。発語が不明瞭だが、人とかかわることを好み、教師の問いかけにジェスチャーで答えたり、選択肢から選んだりして伝えることができる生徒が多い。また、シールや効果音で課題への取組の成果がわかったり、他者から称賛されたりすることで活動に意欲的に取り組むことができる。さらに、個別に課題数や授業の流れを視覚的に提示することで見通しをもつことができる生徒が多い。一方で、机上学習に続けて取り組むことや、始業時間に着席すること、集団学習への参加など、学習態度において課題があるグループである。</p>
系統観	<p>本グループは、小学部2段階の聞くこと・話すことを学習する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">                 (C)立つ、座る、礼などの動作を表す指示を聞いて、その通りに行動する             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">                 身近なものの名称を聞いて言われたものを選んだり、動作を表す指示を聞いて行動したりする             </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">                 ものの名称と動作の組み合わせさせた指示を聞いて、指示に沿って行動をする             </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">                 (N)場所と人、ものの組み合わせさせた指示を聞いて、指示に沿って行動する             </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">                 場所と人、もの、動作の組み合わせさせた指示を聞いて、指示に沿って行動する             </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">                 ものと数の組み合わせさせた指示を聞いて、指示に沿って行動する             </div> </div> <p>上記のように前題材までに、ものや動作を表すことばや場所、人、色の視点を聞き取ることを学習してきた。また、国語の他の領域の学習では、配慮的にももの名称や動作語、形容詞などの語彙を増やすようにしてきた。そこで本題材では、ものと動作の視点を聞き取って行動することやものと数の視点を聞き取って行動できるようにしたい。</p>
指導観	<p>本題材では、1時間で指導する内容を焦点化し、知識及び技能を確実に習得するための時間と思考力・判断力・表現力等を身につける時間とを分けて指導する。複数の視点を聞き取ることはできるが、聞き取った視点に沿って行動できないことがあるため、聞き取る視点について、Cはものと動作、D・Nはものと数それぞれ2つに絞ることで、指示に沿って行動できるようにしたい。また、タブレット端末を使用し、視覚や聴覚的に自分で正誤判断をすることができるようにすることで、聞き取ったことばとものや数の結びつきを確かなものとすることや、誤答時は自分で気づいて選び直すことができるようにしたい。</p>
教材観	<p>本教材は、助けた人からありがとうと伝えられることで、指示をよく聞くことや指示に沿って行動することに意欲をもって取り組むことができるように、指示に沿って行動できると人を助けられる設定とした。また、課題においても、学校や家庭などで想定されるものと動作、ものと数の視点で聞き取る課題を設定することができる考えた。</p>

### (2) 生徒の実態と指導の方向

生徒の実態	
C	<p><b>【一般的な実態】</b> CA：13 自閉症スペクトラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荷物整理や授業準備などをするとき、「タオルを持って来てください」の指示を聞いて、異なるものを持って来ることや、ものを取りに行く途中で立ち止まって掲示物や友だちの活動を見ることがある。</li> <li>・自分の思いと異なる状況になると、大声を出したり、ものを投げたりすることがある。</li> </ul> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なことばに、指さしや視覚的な手がかりを加えて提示すると、活動や課題に取り組みはじめる。</li> <li>・絵カードや単語カードなどを、教師が指さして「同じ?違う?」と尋ねると、選んだものと教師の提示した答えが同じときはうなずき、異なるときは提示した答えと同じカードを選び直すことがある。</li> </ul>

C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～4個の選択肢を机上に提示すると、教師が言ったものを選ぶことができるが、5個以上の選択肢を提示し、正答が端にある場合は異なるカードを選ぶことがある。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を座って聞く場面や操作や動きの少ない活動のとき、机に伏せたり、目を閉じたりする。</li> <li>・教師と一緒に決まった仕方です繰り返し取り組み、できたことを即時に認めると、自分から課題に取り組んだり、できたものを教師や友だちに見せたりする。</li> </ul> <p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;知識及び技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タオルや水筒などの名称を聞いて正しく選ぶことができる。</li> <li>・ふで箱やファイルなどは、名称を聞いて異なるものを選ぶことがある。</li> </ul> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「捨てて」「持って来て」の指示を聞き、持っているものをゴミ箱に捨てたり、教師に手渡したりする。</li> <li>・教師の「タオルを持って来てください」「ふで箱を出してください」の指示を聞いて、正しいものを選び取り指示に沿って行動するときと、異なるものを選び取って行動するときがある。</li> </ul>
	<p><b>【指導の方向】</b></p> <p>日常生活で、ものと動作の組み合わせが指示を聞いて、指示と異なるものを選んだり、行動途中で他に注意がそれたりすることがある。本題材では、ものと動作を含む指示を聞き取って行動できるようになってほしい。指示に沿った行動ができることで、授業準備など身の回りのことを自分でできることが増えると考え。名称が一致しているものや動作をそれぞれ聞き取ることはできているため、ものと動作について、場面を想起できるように絵で提示し、その中から選ぶようにする。合わせて、語彙を増やすことができるように、日常生活で触れる機会の多いもので、ものと名称が一致しつつあるものも取り扱う。また、移動距離を短くすることで、なるべく注意がそれることのないように配慮し、正しく行動できたときは、即時に認めたり意味づけたりするようにする。そうすることで、ものと動作を聞き取って、一人で行動することが可能になると考える。</p>
N	<p><b>【一般的な実態】</b> CA：14</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業準備のときや休み時間などに、教師の「〇〇先生に渡して」や「(タオル)を持って来て」、「(教材室)に行くよ」などの指示を聞いて、指示に沿った行動ができる。</li> </ul> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵カードや単語カードなどを見て、選んだものと教師の提示した答えが同じときは「同じ」や「まるです」などと言い、異なるときは提示した答えと同じカードを選び直す。</li> <li>・教師が問いかけた後に机上に2～4個の選択肢を提示すると、正しい選択肢を選び取ることができるが、問いかける前に机上に選択肢を提示しておく、教師の問いかけを聞く前にいずれかの選択肢を選び取ることや、同様の選択肢の数でも異なる選択肢を選ぶことがある。</li> </ul> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違いが続いたり自分の思いと異なる状況になったりすると、「もうしない」などと言うことがある。</li> </ul> <p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;知識及び技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～5の数字カードや絵カードを提示し、教師が「5ください」などことばをかけると、指示に沿った数のカードを選び取ることができる。</li> <li>・ものの数が2つと3つの具体物を提示し、教師が「2つはどちらですか」などと尋ねると、異なる方を選ぶことがある。</li> </ul> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内の置き場所を知っているものについて、教師が「ペンを2本持って来てください」などと伝えると、引き出しからペンを1本取り出して教師へ手渡すが、教師が指文字で数を提示して、「ペンを2本持って来てください」と再度ことばをかけると、指示に沿った数を選び直して手渡す。</li> </ul>
D	<p><b>【一般的な実態】</b> CA：12 自閉症スペクトラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の音に過敏に反応し、耳をふさいだり、大声で泣いたりすることがある。</li> <li>・授業準備のときや休み時間などに、教師の「ふで箱を持って来て」や、ものを手渡して「捨ててきて」、「〇〇先生に渡して」、「教材室に行くよ」という指示を聞いて、指示に沿った行動ができる。</li> </ul> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p>

<b>D</b>	<p>・絵カードや単語カードなどを見て、選んだものと教師の提示した答えが同じときはそのままカードを見たまま、異なるときは提示した答えと同じカードを選び直す。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <p>・課題の数や、活動の流れを視覚的に提示すると、見通しをもち、自分から課題に取り組むことができる。</p> <p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;知識及び技能&gt;</p> <p>・1～10の数字カードや絵カードを提示し、教師が「5ください」などとことばをかけると、指示に沿った数のカードを選び取ることができる。</p> <p>・ものの数が2つと3つの具体物を提示し、教師が「2つはどちらですか」などと尋ねると、異なる方を選ぶことがある。</p> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <p>・ペンを数本置き、教師が「2本ください」とことばをかけると、ペンを2本手に取り教師へ手渡す。</p> <p>・ペンや消しゴム、鉛筆などを5つずつ置き、教師が「ペンを3本ください」などと指示をすると、棚の上にあるペン全てを手に取り、教師へ手渡す。</p>
	<p><b>【指導の方向】</b></p> <p>Nは、ものと数の組み合わせの指示を聞いて、ものを正しく選ぶが、数が異なることがあり、Dは、ものと数の組み合わせの指示を聞いて、その場にある全てを持って来たり、数が異なったりすることがある。本題材では、ものと数の組み合わせの指示を聞き取って行動できるようになってほしい。ものと数の組み合わせの指示を聞いて行動することができることで、授業準備や家庭での手伝いなど自分のできることや集団の一員として活動できるが増えると考え。Nは、数を指文字で表すものと数のそれぞれを聞いて、指示に沿ったものや数を選ぶことができ、Dは、ものと数のそれぞれを聞いて、指示に沿ったものや数を選ぶことはできるため、ものと数の組み合わせの中から両方の視点を満たすボードを選び取るようにすることで、両方の視点を意識して聞き取ることができる。また、「1つ」「2つ」などの語彙を増やすことで、指示に沿った行動をすることが可能であると考え。</p>

**3 題材目標 ※「知識及び技能」を「知」、「思考力・判断力・表現力等」を「思」で示している**

		題材目標	学習指導要領の扱う内容
<b>C</b>	<b>知</b>	「(もの)を(動作: 持って来る、捨てる)」の指示を聞いて、名称と一致するものと動作の仕方がわかり、指示に沿ったものと動作を表す『お願いカード』を選ぶ	小学部2段階 A 聞くこと・話すこと <b>【知識及び技能】</b>
	<b>思</b>	「(もの)を(動作: 持って来る、捨てる)してください」の指示を聞いて、動作の仕方を考え、その対象を判断し、指示に沿ったものを選び、一人で行動する	ア(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。こと。
<b>N・D</b>	<b>知</b>	ものと数(数)と助数詞、1つ、2つ、3つを聞いて、ものと数の視点が含まれていることと数え方に応じた個数がわかり、(数)の『ものボード』から、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選ぶ(数…N: 1～3、D: 1～5)	(ウ)身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。 <b>【思考力・判断力・表現力等】</b>
	<b>思</b>	「(もの)を(数: 数と助数詞、1つ、2つ、3つ)持って来てください」の指示を聞いて、ものと数え方に応じた個数を判断し、(数)の『ものボード』から、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を一人で選んで持って来る(数…N: 1～3、D: 1～5)	イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等にに応じた行動をすること。 <b>【学びに向かう力・人間性等】</b>
<b>全学</b>		ことばがもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、ことばでのやりとりを聞こうとしている	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

**4 題材計画 ※資料末尾にA3別紙で記載**

**5 本時案 (全9時間の5時間目)**

(1) 題目 『おたすけポプラズになろう!』で、ものと動作、ものと数を聞いて、指示に沿って行動をしよう

**(2) 本時のめあてと評価規準**

		観点別の本時のめあて	評価規準
<b>C</b>	<b>知</b>	「(もの)を捨てる」の指示を聞いて、名称と一致するものと動作の仕方がわかり、その対象を判断し、指示に沿ったものを捨てる様子を表す『お願いカード』を選ぶ	展開場面10問の6～10問目のうち、5問中3問で、指示に沿ったものを捨てる様子を表す『お願いカード』を選ぶ

	<b>思</b>	「(もの)を捨ててください」の指示を聞いて、動作の仕方を考え、その対象を判断し、指示に沿ったものを選び、ゴミ箱に入れる	支援なしで指示に沿ったものを選んでゴミ箱に入れる ※ゴミ箱の開閉動作などの支援は支援に含まない
<b>N・D</b>	<b>知</b>	ものと数(1つ、2つ、3つ)を聞いて、指示に沿ったものと数え方に応じた個数がわかり、1～3の『ものボード』から、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選ぶ	展開場面問題のうち、4問中2問で、指示に沿った『ものボード』を選ぶ (問題…N: 7問の4～7問目、D: 6問の3～6問目)
	<b>思</b>	「(もの)を(数: 1つ、2つ、3つ)もってきてください」の指示を聞いて、ものと数え方に応じた個数を判断し、1～3の『ものボード』から、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を教師の支援を受けて、選んで持ってくる	ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を教師の支援を受けて選んで持ってくる※自分の席や場面カードの位置に持っていき、教師の支援を受けておたすけコーナーに持ってくることも含む (支援…N: 指文字、D: 教師のことばと指さし)
<b>全学</b>	A3資料「4 題材計画」に記述した主体的な姿が見られるかどうかで題材終了後に評価をする		

### (3) 場面設定と準備物

場面設定	意図と工夫点
<p>&lt;展開場面&gt;</p> <p>&lt;発展場面&gt;</p>	<p>展開場面では、本時のめあてなどが見えるように黒板の正面に座席を配置する。発展場面では、Cが一人で行動できるように、座席をおたすけコーナーの近くに配置し、N・Dがもの位置がわかりやすいように、壁にもの写真をはり、スムーズに行動できるように、動線を広くした。DはNの声や様子を見て、活動が停滞することがあるため、展開場面では座席を離して配置し、発展場面ではおたすけコーナーを分け、動線が重ならないようにした。</p>

### 準備物

	<p>(C)</p> <p>(N・D)</p> <p>Nは指文字</p>	
<p><b>教具名</b> お願いカード(C)</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>それぞれのものを捨てる様子の絵カード。聞き取った指示に沿った場面を選ぶために使用する。</p>	<p><b>教具名</b> タブレット端末</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>指示と同じ音声 flowed 後、正解の絵が出る。選んだものを、自分で正誤判断するために使用する。</p>	<p><b>教具名</b> ものボード(N・D)</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>ものの絵カードが1～5枚はられたもの。聞き取った指示に合うものと数を選ぶために使用する。</p>
<p>(表)</p> <p>(裏)</p>		<p>きく      みる</p>
<p><b>教具名</b> おたすけ場面カード</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>誰かが困っている様子を表すカード。正解できたら裏返したり、持ってきたものを貼ったりして、意欲的に取り組むために使用する。</p>	<p><b>教具名</b> おたすけボード</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>それぞれの課題の数に応じた、困っている人の写真カード。見通しをもち、活動に意欲的に取り組むために使用する。</p>	<p><b>教具名</b> することカード</p> <p><b>意図と用途</b></p> <p>課題の取り組み方を絵とことばで示したカード。それぞれの生徒が何をやる時間かを見てわかるように提示して使用する。</p>

### (4) 展開 ※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

		一次		二次			三次				
時数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
C	知技	場面	「(もの)を持って来る」		「捨てる」	「(もの)を捨てる」		「(もの)を(動作: 持って来る、捨てる)」			
		できた姿	持つて来る様子		指示に沿ったものを持つて来る様子	捨てる様子	指示に沿ったものを捨てる様子		指示に沿ったものと動作		
	思判表	具体的状況	「(もの)を持ってきてください」		「捨てください」	「(もの)を捨ててください」		「(もの)を(動作: 持って来る、捨てる)してください」			
		表出像	動作の仕方を考え、机にあるものを持つて来る	動作の仕方を考え、その対象を判断し、指示に沿ったものを選び、持つて来る		動作の仕方を考え、机にあるものをゴミ箱に入れる	動作の仕方を考え、その対象を判断し、指示に沿ったものを選び、ゴミ箱に入れる		動作の仕方を考え、その対象を判断し、指示に沿ったものを選び 教師の支援を受けて行動する		一人で行動する
N	知技	場面	数(数字のみ)	ものと数(数字のみ)	ものと数(数字と助数詞)	数(1つ、2つ、3つ)	ものと数(1つ、2つ、3つ)		ものと数(1~3と助数詞、1つ、2つ、3つ)		
		できた姿	指示に沿った数の『ものボード』から		ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選ぶ		指示に沿った数の『ものボード』から		ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選ぶ		
	思判表	具体的状況	「(数: 数字のみ) 持つて来ててください」	「(もの)を(数: 1~3) 持つて来ててください」	「(もの)を(数: 1~3と助数詞) 持つて来ててください」	「(1つ、2つ、3つ) 持つて来ててください」	「(もの)を(数: 1つ、2つ、3つ) 持つて来ててください」		「(もの)を(数: 1~3と助数詞、1つ、2つ、3つ) 持つて来ててください」		
		表出像	個数を判断し	ものと個数を判断し		ものと数え方に応じた個数を判断し					
D	知技	場面	数(数字のみ)	ものと数(数字のみ)	ものと数(数字と助数詞)	数(1つ、2つ、3つ)	ものと数(1つ、2つ、3つ)		ものと数(1~5と助数詞、1つ、2つ、3つ)		
		できた姿	指示に沿った数の『ものボード』から		ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選ぶ		指示に沿った数の『ものボード』から		ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選ぶ		
	思判表	具体的状況	「(数: 数字のみ) 持つて来ててください」	「(もの)を(数: 1~5) 持つて来ててください」	「(もの)を(数: 1~5と助数詞) 持つて来ててください」	「(1つ、2つ、3つ) 持つて来ててください」	「(もの)を(数: 1つ、2つ、3つ) 持つて来ててください」		「(もの)を(数: 1~5と助数詞、1つ、2つ、3つ) 持つて来ててください」		
		表出像	個数を判断し	ものと個数を判断し		ものと数え方に応じた個数を判断し					
主体的な姿	粘り強さ	○教師が名前を呼ぶことや写真カードを提示することに応じて、返事をしたり、自分から課題の場所に行こうとしたりする ○『おたすけボード』を見て、おたすけコーナーに行くなど、自分から次の課題に移ろうとする									
	学習調整	○間違えていたとき、タブレット端末の音声聞くことや絵を見ることで、自分でカードを選び直そうとしたり行動し直そうとしたりする									
配慮的に扱う内容		○助数詞(D・N) ○語彙(C)									

(4) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ		
	C	N	D
1. 本時の学習活動の流れを知り、見通しや意欲をもつ。	<p>○本時の学習活動へ見通しをもつことができるように、本時の流れや『することカード』を黒板に提示して伝える(C・Dは、全体への見通しとは別にホワイトボードを使い、問題数などの細かな活動の内容と具体的な数を個別に知らせる)。</p> <p>○聞くことを意識することができるように、一人一人の名前を呼び、自分の名前を聞いて手を挙げたり返事をしたりすることができた場合には、教師のことばをよく聞いていることを伝えて認める。</p> <p>○国語の学習がはじまることや、Cは語彙を増やすこと、N・Dは聞き取る視点の1つである数について、数字や数え方に応じたものの個数を理解することができるように、絵本を読み、ものの名称を伝えたり、数を尋ねたり、選択肢から選ぶようにしたりする。そして、教師のことばに合わせて声を出したり、正しく数を言ったり、選択肢から正しい方を選んだりすることができた場合には、ものを指さして「これは(もの)ですね」と伝えることや、数を数えた後に「(数字)は(1つ、2つ、3つ)ですね」と伝え、数を指文字で示したり数え方を示す文字を指さしたりして認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異なる名称の選択肢を選ぶ場合には、ものと名称が一致することができるように、「これは(もの)ですね」などと伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個数と異なる数の数え方の選択肢を選ぶ場合には、数え方に応じた個数を理解することができるように、数を尋ねた後、「(数字)は(1つ、2つ、3つ)ですね」などと伝え、数を指文字で示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個数と異なる数の数え方の選択肢を選ぶ場合には、数え方に応じた個数を理解することができるように、教師が指さして数えた後、「(数字)は(1つ、2つ、3つ)ですね」などと伝え、数え方を示す文字を指さす。</li> </ul>
2. ものと動作やものと数を聞いて、指示に沿った『お願いカード』や『ものボード』を選ぶ。	<p>○個別の課題や全員でする課題で聞くことを意識することや意欲的に課題に取り組むことができるように、本時のめあてを文と絵で黒板に提示して部分的に一緒に読み上げた後に、個別の課題に取り組むようにする。</p> <p>○机の上にストロー、牛乳パック、ティッシュを提示し、「(もの)をください」と伝え、指示に沿ったものを選ぶことができた場合には、名称を確認するために、「これは(もの)ですね」などとことばをかけて認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異なるものを選ぶ場合には、ものと名称が一致し、選び直すことができるように、「これは(もの)ですね。(もの)をください」などと伝える。</li> <li>選び直した後に異なるものを選ぶ場合には、ものと名称が一致するように、「これは(もの)ですね。(正しいものはこれです)」などと伝える。</li> </ul> <p>○机の上に『お願いカード』を3枚提示し““(もの)を捨てる”はどれですか?”と伝え、指示に沿ったものの『お願いカード』を選ぶことができた場合には、ものを聞き取ることを意識することと動作について理解することができるように、タブレット端末で音声と絵を提示した後、ものとゴミ箱をそれぞれ指さして「これは(もの)。ゴミ箱にポイが“捨てる”。“(もの)を捨てる”はこれですね。」などと伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指示と異なるものの『お願いカード』を選ぶ場合には、ものを聞き取ることを意識し、選び直すことができるように、タブレット端末で音声と絵を提示する。</li> <li>選び直した後に異なるものの『お願いカード』を選ぶ場合には、『お願いカード』のものに目を向け、聞き取ることを意識することができるように、タブレット端末で音声と絵を提示した後、タブレット端末とそれぞれの『お願いカード』のものを指さして、““(もの)を捨てる”はどれですか?”と伝える。</li> </ul>	<p>○「(1つ、2つ、3つ)ください」と伝え、机の上に1～3の『ものボード』を提示し、指示に沿う数を選ぶことができた場合には、数の数え方に応じた個数を確認するために、数を数えた後、「これは2つですね」などとことばをかけ、数を指文字で示したり、数え方を示す文字を指さしたりして認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異なる数を選ぶ場合には、数え方に応じた個数を理解することができるように、数を尋ねた後、「(数字)は(1つ、2つ、3つ)ですね」などと伝え、数を指文字で示す。</li> </ul> <p>○「(もの)を(1つ、2つ、3つ)ください」と伝え、異なるものや数を含む3つの『ものボード』を机の上に提示し、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を選ぶことができた場合には、聞き取る視点や、数え方に応じた個数を確認できるように、タブレット端末で音声と絵を提示した後、絵を指さし、「これは(もの)ですね」と伝え、指文字を示したり文字を指さしたりして「2つは2ですね」などと伝えて認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異なるものや数、または両方とも異なる『ものボード』を選ぶ場合には、ものと数の両方の視点に目を向け、選び直すことができるように、タブレット端末で音声と絵を提示した後、ものや数を問いかける。</li> <li>選び直した後にものや数、または両方とも異なる『ものボード』を選ぶ場合には、ものの名称や、数え方に応じた個数を理解したり、両方の視点を聞き取ったりできるように、タブレット端末で音声と絵を提示した後、絵を指さし、「これは(もの)ですね」などと伝え、指文字を示して「2つは2ですね」などと伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる数を選ぶ場合には、数え方に応じた個数を理解することができるように、教師が指さして数えた後、「(数字)は(1つ、2つ、3つ)ですね」などと伝え、数え方を示す文字を指さす。</li> <li>異なるものや数、または両方とも異なる『ものボード』を選ぶ場合には、ものと数の両方の視点に目を向け、選び直すことができるように、タブレット端末で音声と絵を提示する。</li> <li>選び直した後にものや数、または両方とも異なる『ものボード』を選ぶ場合には、ものの名称や、数え方に応じた個数を理解したり、両方の視点を聞き取ったりすることができるように、タブレット端末で音声と絵を提示した後、絵を指さし、「これは(もの)ですね」などと伝え、文字を指さして「2つは2ですね」などと伝える。</li> </ul>
3. 『おたすけポプラーズになろう!』で、ものと動作やものと数を含む指示を聞いて、指示に沿って行動する。	<p>○聞くことを意識することができるように、『することカード』を提示して、「よく聞いて、やってみよう」などと伝える。</p> <p>○活動に見通しをもち、意欲的に取り組むことができるように、『おたすけボード』とそれぞれの『おたすけ場面カード』を提示し、指示をよく聞いて活動に取り組むように伝える。</p> <p>○机の上にストロー、牛乳パック、ティッシュを提示し、「(もの)を捨ててください」と伝え、指示に沿ったものをゴミ箱に入れることができた場合には、指示に沿った行動ができたことがわかるように、すぐに効果音を鳴らしたり、「丸ですね」とことばをかけたりした後、行動を意味づけるために、タブレット端末で音声と絵を提示し、「これは(もの)。ゴミ箱にポイが“捨てる”。“(もの)を捨てる”はこれですね。」などと動作を示しながらことばをかけて認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指示を聞いた後に、他の場所へ行こうとしたり友だちの様子を見たりする場合には、指示を思い出すことができるように、机を指さしたり、『することカード』を提示したりして再度指示を伝える。</li> <li>指示と異なるものを選んで捨てる場合には、ものを聞き取ることに目を向け、選び直すことができるように、タブレット端末で音声と絵を提示し、ゴミ箱の中を指さして「同じ?違う?」などと問いかける。</li> </ul>	<p>○もの置き場にスプーン、お皿、コップの『ものボード』を提示し、「(もの)を(1つ、2つ、3つ)持って来ててください」などと伝え、ものと数の両方が指示に沿った『ものボード』を持って来ることができた場合には、聞き取る視点や、数え方に応じた個数を確認することができるように、タブレット端末で音声と絵を提示し、絵を指さして「これは(もの)ですね」などと伝えた後、指文字を示したり文字を指さしたりして「2は2つですね。これは(もの)が2つですね」などとことばをかけて認め、『おたすけ場面カード』に絵カードをはるように伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『ものボード』を選んだ後、席に座ったり『おたすけ場面カード』にはりに行こうとしたりする場合には、おたすけコーナーに持って来ることがわかるように、名前を呼ぶことやジェスチャーをすることで知らせる。</li> <li>異なる『ものボード』を選ぶ場合には、ものと数の両方の視点に目を向け、選び直すことができるように、タブレット端末で音声と絵を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立ち止まったり、他の生徒の様子を伺ったりする場合には、様子を見守った後、何をすればよいかを思い出すことや、することに目が向くように、再度指示を伝える。</li> </ul>
4. 本時の学習を振り返り、次時への意欲をもつ。	<p>○指示に沿って行動することができたことを振り返り、次時への意欲をもつことができるように、『おたすけポプラーズになろう!』で助けた人からの感謝の映像を見たり、感謝シールを渡したりした後によく聞いて行動できていたことを称賛し、本時のめあてにはなまるをつけ、次時も指示をよく聞くように伝え、本時を終える。</p>		